

B組 国語科学習指導案

日 時 平成28年7月5日（火）第4限

場 所 B組教室

指導者 村田幸恵 支援員 谷口りの

1 単元名 文を作って話をしよう

2 単元目標

- (1) 身近な事柄について考えることができる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 身近な事柄について簡単な言葉で話し、聞くことができる。 (話す・聞く)
- (3) 身近な事柄について書くことができる。 (書く)

3 指導上の考察

(1) 単元について

国語科の目標は、特別支援学校学習指導要領の「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」の国語の目標に準じており、「日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する態度を育てる」である。話すことに関する内容は、3段階の(2)の「見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す」に、書くことに関する内容は3段階の(4)の「簡単な語句や短い文を平仮名で書く」と示されている。

毎時間、国語の時間は、国語の教科書にそって、音読・漢字練習・意味調べ・プリント学習を中心に進めている。それらの学習を通して、会話や話す機会を持ち、尋ねられたことには、少しずつ答えられるようになってきた。

週1時間、担任と支援員1人と児童2人で、「話す」「聞く」の学習を進めている。この単元で、話せるようになってきた事柄を、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」を意識して、より詳しく話せるようにしていく。そして、文字にすることを通して、話したい事柄をまとめていく力をつけていく。

(2) 児童について

(3) 指導について

Aは、たくさんの言葉を知っているが、言葉の意味を理解していない語句も多い。現

段階では、たくさん知っている語句を上手につかっていくことが難しいので、この学習を通して、少しずつ使い自分から話す機会につなげたい。また、話す学習を進めながら、短い文を自分の力で書いていけるように指導していきたい。

Bは、話すことに関しては、主語や助詞が抜けたりすることがあるが、いろいろなことを話せるようになってきた。話すことを通して、わかったことをじっくりと文にして、書くことにつなげていき、学習する意欲へとつなげていきたい。

4 指導計画（全4時間）

- (1) 生活の中で使っている「ことば」をあつめる。 (1時間)
 (2) 身近な事柄について、文をつくり、話す。 (3時間) (本時2/3)

5 本時の指導について

(1) 本時の目標

水泳について「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」を意識して、わかりやすく話すことができる。

(2) 準備物 写真 ことばカード ホワイトボード

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1 (A) (B) 音読をする。	・ 大きな声で、はっきりと音読させる。 (A) に支援員 (B) に担任
2 本時の課題を知る。	
水泳について文をつくって発表しよう	
3 写真を見て、例文で課題を確かめる。 (A) (B) それぞれに課題を確かめる。	・ 写真をもとに、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」を説明し、理解させる。 ・ 写真とともに、写真をあらわすカードと「が」「を」「どうした」のカードも利用しながら、文を作らせる。 (A) に支援員 (B) に担任、途中で交代する。
4 実際に写真を使って文を作る。 (A) プール掃除・初めての水泳の授業など (B) 初めての水泳の授業・初めて泳げた時のこと	・ 支援員・担任と話しながら進める。 ・ 正しくわかりやすい文になっているか確かめる。
5 作った文を発表し、作った文について、説明する。 ・ うれしかったこと ・ 残念だったことなど	・ 付け加えたほうがいいものがないか、確認させる。 評価：「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」を意識して、文をつくれたか (ホワイトボード)
6 本時の振り返りをする。 「次の水泳の時間にどんなことをがんばりますか？」	・ 次の水泳の時間にがんばることを話させる。